

中期目標の達成状況報告書  
(別添資料)

平成28年6月  
兵庫教育大学

## 目 次

(別添資料 1) 教員養成スタンダード (小学校版) (抜粋) . . . . .	1
(別添資料 2) カリキュラムマップ . . . . .	4
(別添資料 3) 学生による授業評価集計結果 . . . . .	6
(別添資料 4) 教員養成スタンダード (大学院) (抜粋) . . . . .	7
(別添資料 5) 教員養成スタンダード (大学院) 自己評価票 . . . . .	9
(別添資料 6) 教職アドバンスプログラム概要 . . . . .	14
(別添資料 7) ベストクラス選定理由書 . . . . .	17
(別添資料 8) 平成 27 年度免許状更新講習事後評価アンケート 集計結果(必修・選択) . . . . .	18
(別添資料 9) 平成 27 年度兵庫教育大学研修講座 実施状況 . . . . .	20

## 教員養成スタンダード(小学校版)

教員養成スタンダード			教員養成スタンダード					
領域	中項目	項目	領域	中項目	項目			
1. 学び続ける教師	① 省察の実践	1 常に自らの学びを省察し、課題を見つけて改善することができる	3. 基づく学級子ども経営・解に生徒指導	3 生徒指導	28 子どもの基本的な生活習慣の重要性を理解し、指導を行うことができる			
	② 研究を通じた専門性向上	2 研究活動を通じて絶えず自らの専門性の向上を図ることができる			29 学校の規則や子どもが自分たちで作った決まりを守ることの大切さについて指導することができる			
	③ 長期的視野に立つ職能成長	3 長期的視野に立って、自らの職能成長を図ることができる			30 子どもの問題行動の背景を多面的にとらえ、対応方法を考えることができる			
2. 教師としての基本的素養	① 社会人としての素養	4 言葉づかい、挨拶、礼儀、マナーなどの社会人としての常識を身につけている	4. 教科等の指導	① 内容理解	31 教育相談の意義、理論や技法に関する基礎的知識を持っている			
		5 集団での活動において、リーダーシップを発揮することができる			32 キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な理論や方法に関する基礎的知識を持っている			
		6 自らのストレスと身体の健康を適切に自己管理することができる			33 学習内容の系統性や各学年間のつながり等を含め、学習指導要領の主な内容を理解している			
		7 日本及び外国の文化・歴史、環境問題、平和問題等についての幅広い知識を持っている			34 教科等の内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に活かすことができる			
		8 教師としての使命感を持ち、その役割と職務内容を理解している			35 教材の内容について分析・解釈し、適切な教材の準備を行うことができる			
		9 教育に関する社会的・制度的事項を理解し、現代の学校教育の課題を把握することができる			36 子どもの実態や地域の特色に合わせて教材・教具に工夫を加えたり、新たな教材・教具を開発したりすることができる			
		10 教育の理念・歴史・思想について理解し、自らの教育観を深めることができる			37 主な学習指導方法の長所と短所を理解したうえで、学習の場面に応じて適切な指導方法を選択することができる			
	② 教師としての素養	11 教育課程の意義や編成の方法について基本的事項を理解している		② 授業方法・指導技術	38 各教科等の内容に即した指導方法について理解し、活用することができる			
		12 子どもに対して正しくわかりやすい言葉づかいができる			39 板書、発問、指示の仕方など授業を行ううえでの基本的な指導技術を身につけている			
		13 学校生活の様々な場面で子どもの興味・関心・意欲を喚起するための工夫を行うことができる			40 学習内容の習熟の程度などを踏まえて、個に応じた指導を試みることができる			
		14 人権を尊重しながら子どもにかかわることができる			41 子どもの多様な思考を生かしながら、子どもの協同的な学習を促すことができる			
		15 子どもの安全管理に関する基礎的知識を有し、指導に活かすことができる			42 授業中の子どもの学習状況や発言に配慮し、柔軟な授業展開を試みることができる			
		16 素直に他の教師に相談するとともに、他の教師の意見に対して謙虚に耳を傾けることができる			③ 授業計画	43 各教科等の年間指導計画の内容を理解し、自己の単元計画や本時案に反映させることができる		
		17 主な情報通信機器の利用方法を理解し、教育活動に活かすことができる				44 単元計画と子どもの実態を踏まえ、学習指導案を作成することができる		
		18 自らが学校組織の一員であることを理解し、組織内での自らの役割を自覚している			④ 授業研究	45 授業研究の重要性を理解するとともに、積極的に取り組むことができる		
		① 子ども理解				19 子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる	⑤ 学習評価	46 子どもの学習に対する主な評価の方法を理解し、学習指導に活かすことができる
					20 子ども一人ひとりの特性や心身の状況を生活環境や生育歴を含めて多面的にとらえることができる	① 他教師との連携・協働		47 子どもに関わる情報を他の教師と共有する姿勢を持っている
					21 子ども同士の関係や仲間集団を把握し、指導に活かすことができる			48 様々な場面で他の教師と協働する姿勢を持っている
22 公平かつ受容的・共感的な態度をもって子どもにかかわることができる	② 保護者・地域等との連携・協働		49 学校と保護者・地域・他の専門家・他校種との連携の重要性や役割分担について理解している					
23 特別支援教育に関する基礎的知識を有し、子どもの指導や支援に活かすことができる			50 保護者や地域の声に耳を傾け、誠実に対応する姿勢を持っている					
② 学級経営			24 学級担任の役割と職務内容に関する基礎的知識を持っている	5. 連携・協働				
		25 学級経営案の意義を理解し、作成することができる						
	26 子どもとの信頼関係の重要性を認識し、その構築に努めることができる							
	27 教室掲示や座席配置を工夫するなど、子どもが生活や学習をしやすいよう教室環境を整えることができる							

## 6. 教員養成スタンダードに基づく自己評価

教員養成スタンダードによって示されるそれぞれの資質能力は、「CanPass ノート」を使って、各自が行う自己評価によって主に確認されます。CanPass ノートにはみなさんが作成した成果物（授業レポートやメモ等）や、定期的に求められる振り返りの記録などが蓄積されるとともに、スタンダード項目ごとに授業科目の成績から導きだされる TSS（Teachers' Standard-based Score）などが記録として残されます。

教員養成スタンダードに基づく自己評価は、CanPass ノートに記録された TSS や蓄積された成果物（レポートや実習記録など）、振り返りの記録などに基づき行います。そのためには、成果物を定期的に CanPass ノートに記録することや、定期的に振り返りを行い、記録を残すことが大切です。また、成果物の蓄積状況や振り返りの記録状況などは、クラス担当教員やゼミ教員などに定期的に確認を受ける必要があります。

自己評価は、小学校の場合 50 項目の教員養成スタンダードの下位に設けられた「自己評価のための具体例」に基づき、4 段階の尺度（1. できない、2. 少しできる、3. ほぼできる、4. 十分できる）で行います。

卒業時には、次の①、②両方の基準を満たすことが求められます。

- ①卒業時に全スタンダード項目で、2（少しできる）以上となること
- ②卒業時に 10 項目以上で、3（ほぼできる）か 4（十分できる）となること

※CanPass ノートへは、履修確認や成績確認のための教育支援システム（LiveCampus）からログインできます。（自宅等学外からもログインできます。）

### ▼CanPass ノートとは

兵庫教育大学に入学した学生全員が利用する電子ポートフォリオ・システムの名称です。（ポートフォリオは、本来「紙挟み、書類かばん、作品集など」を意味します）インターネットに接続されたパソコンから、日々の活動記録、自己評価や振り返りを入力したり、レポートや実習記録などの様々な成果物を記録したりすることや、蓄積されたデータを確認することができます。

### ▼TSS (Teachers' Standard-based Score) とは

「カリキュラムマップに基づき各授業科目の成績から導かれた教員養成スタンダードに関するスコア」のことであり、自己の成長を確認するためのものです。

教員養成スタンダードの5領域（小学校：①学び続ける教師、②教師としての基本的素養、③子ども理解に基づく学級経営・生徒指導、④教科等の指導、⑤連携・協働）ごとに計算され、3年次以降 CanPass ノートで確認できます。（レーダーチャートで表示）

計算方法は、カリキュラムマップに基づき各授業科目の成績から導かれたスタンダードに関する重みづけ（S=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、F=0）に基づき、GPAと同様に算出します。（F評価の授業科目の単位数も分母に算入します）また、30単位を修得するごとに0.5点の加点を行います（加点は2.0が上限）ので、理論上の最高のスコアは6.0となります。

## 7. 教職実践演習と教員養成スタンダード（CanPass ノート）

教職実践演習は、4年次後期に開講する必修科目です。兵庫教育大学での授業科目の履修や課外での様々な活動を通じて、みなさんが身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて、最終確認します。

この必修科目である教職実践演習を履修するためには、CanPass ノートにみなさんが蓄積した成果物（授業レポートやメモ等）、日々の活動記録や振り返りの記録などを基に、①教員養成スタンダードに基づく自己評価が各学年でしっかり行われていること、②3年次の終わりに作成する「卒業準備ファイル」が完成していることが必須になります。

1年次から CanPass ノートをしっかり活用していきましょう。





# 学生による授業評価(教職実践演習「模擬授業」) 集計結果

平成27年度

所属コース・分野

学校教育系	学校心理系	幼年教育系	社会系	言語系		自然系		芸術系		生活・健康系		総合学習系	理数プログラム	計
				国語	英語	数学	理科	音楽	美術	保健体育	家庭			
26	7	1	21	13	15	12	13	6	3	12	5	9	2	145

問1 模擬授業を行った教科は何ですか。

国語	算数	理科	社会	体育	音楽	図画工作	家庭	外国語活動 (英語)	計
18	14	16	21	18	18	15	8	18	146

問2 これまでの実地教育で、この教科の授業を行ったことがありますか。

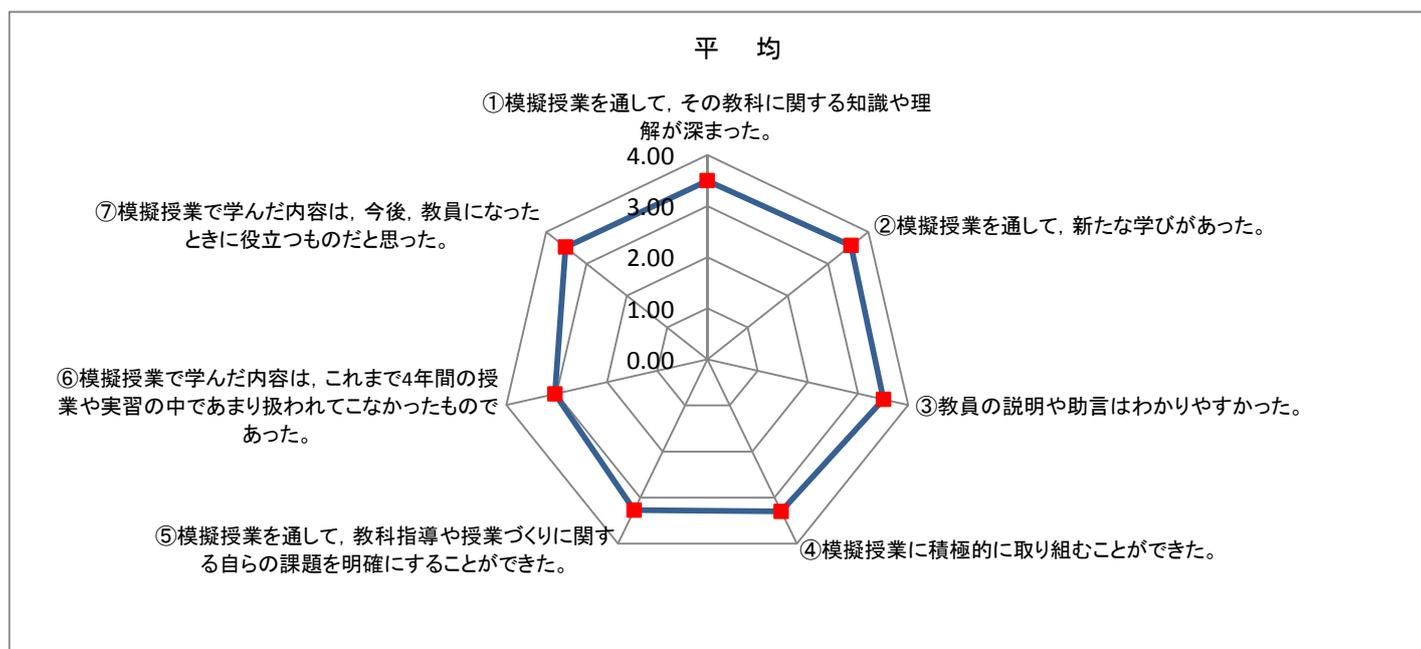
ある	ない
65	81

問3 大学の授業(コースの専門科目, 初等〇〇授業研究等)で、この教科の模擬授業を行ったことがありますか。

ある	ない
36	110

問4 この授業に関して、下記の項目①から⑦について、あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から1つ選んで、数字の欄に○をつけて下さい。なお、設問の「模擬授業」には、学習指導案の作成も含まれます。

	4 とてもあてはまる	3 あてはまる	2 少しあてはまる	1 あてはまらない	平均
①模擬授業を通して、その教科に関する知識や理解が深まった。	84	50	12	0	3.49
②模擬授業を通して、新たな学びがあった。	92	45	9	0	3.57
③教員の説明や助言はわかりやすかった。	85	51	9	1	3.51
④模擬授業に積極的に取り組むことができた。	68	56	20	2	3.30
⑤模擬授業を通して、教科指導や授業づくりに関する自らの課題を明確にすることができた。	59	69	17	1	3.27
⑥模擬授業で学んだ内容は、これまで4年間の授業や実習の中であまり扱われてこなかったものであった。	40	74	29	3	3.03
⑦模擬授業で学んだ内容は、今後、教員になったときに役立つものと思った。	92	39	14	1	3.52



## 基礎部分のスタンダード

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

## 基礎部分のスタンダード（幼年教育）

5 領域	スタンダード	
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている
子ども理解に基づく指導と学級経営	6	子どもの発達についての知見を踏まえて一人ひとりの子どもにかかわることができる
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団の育成ができる
	8	子どもの多面的な理解をもとに、多様な場面に対して適切かつ柔軟に対応できる
保育の展開と指導	9	専門的な知見をもとに保育内容を探究し、教材開発につなげることができる
	10	保育方法を分析する幅広い知識を有し、子どもの遊びや育ちを支援することができる
	11	長期的な発達の見通しと子どもの実態を踏まえて指導計画に反映させることができる
	12	教師としての専門的な知見を保育研究に生かすことができる
	13	保育の評価に関する多面的な理解をもとに、評価を指導に生かすことができる
連携・協働	14	多様な場面で園内での協働を進める方法論を身につけている
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している

## 専門性の実現に向けたスタンダード

専攻	コース	観点	スタンダード
人間発達教育	教育コミュニケーション	探究力	人間、社会、教育について、広い視野から、根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している
		実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら、組織変革のために提言できる実践力を有している
		研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している
	幼年教育・発達支援	専門性・研究	乳幼児教育や子育て支援に関する専門的な知見と高度な研究力を持ち、実践の改善に取り組むことができる
		子育て支援	未就園児を含む親子の活動に対する援助と環境構成を適切に行うとともに、地域や保護者の実態に配慮した子育ての支援ができる
		連携・協働	保護者や地域との連携を図りながら、他の教師と協働して保育の改善に取り組むことができる
	学校心理・学校健康教育・発達支援	学校心理	学校における子どもの支援に役立つ心理学的な理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		発達支援	子どもの発達に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導・支援力を身につけている
		学校健康教育	学校保健、学校安全、健康教育に関する理論と実践についての理解を深め、それに基づく研究能力と指導力を身につけている
	臨床心理学	臨床心理学理論	臨床心理学の支援理論と技術とを知り、学校現場を初めとする各臨床現場での心理士としてこれらの知識・技術を学び続けることのできる専門職者としての探究力をもっている
		臨床心理学実践	学校現場を初めとする各臨床現場での臨床心理サービスに関わる知見と技術を他者と共有し、高め続けることのできる研究・実践力をもっている
		理論と実践の融合	臨床心理学に基づく支援の理論、および支援技術の実習を通じて、学校現場を初めとする各臨床現場で臨床心理学的支援の方法を開発・研究・省察していくことができる

専攻	コース	観点	スタンダード	
特別支援教育	障害科学	障害児・者の教育・福祉と支援における連携	障害児・者の教育・福祉に関する理念や制度を知り、多様な学問領域からのアプローチを理解し、多領域の連携・協働による支援について重要性を理解し探究し続けることができる	
		障害理解と啓発	視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、発達障害、重度重複障害等の多様な障害について、特性の理解を深め、また、障害児・者の周囲に対して理解を促すことができる	
		障害児・者、保護者、学級・学校への支援	障害児・者、保護者、学校・学級から地域の支援制度といった、個人レベルから社会レベルに至る様々な次元で、共生社会形成・インクルーシブ教育構築に向けた包括的・体系的支援の必要性を理解し、計画、実践、評価していくことができる	
	発達障害支援実践	コミュニケーションと校内体制	教員間コミュニケーションを促す基本スキルを身につけ、キャリアステージに応じて校内や地域の連携・協働を推進することができる	
		個別のニーズと指導計画	個別のニーズを見極め、支援・配慮の目標設定を行い、手立て・工夫を取り入れた指導計画を立案して、その結果を評価できる	
		通常の学級と特別支援教育	特別支援教育的観点から、通常の学級における授業デザインや学級経営の工夫を考えることができる	
教科教育実践開発	言語系教育	教科内容	国語・英語を学ぶ楽しさを知り国語・英語を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	国語・英語の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	国語・英語の教育内容に関する高度な専門的知識と国語・英語の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	社会系教育	教科内容	社会系教科の内容と社会系教科の背景にある専門諸科学について高い理解力をもっている	
		教科教育	社会系教科の教科教育について高い実践力をもっている	
		学び続けることができる探究力	修士論文の作成過程において研究の方法を学び、社会系教科の授業力の向上のために強靱な探究力をもって学び続けることができる	
	理数系教育	教科内容	数学・理科を学ぶ楽しさを知り、教員として数学・理科を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	教員として、算数・数学、理科の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	数学・理科の教育内容に関する高度な専門的知識と算数・数学、理科の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	芸術系教育	教科内容	音楽・美術を学ぶ楽しさを知り、教員として音楽・美術を学び続けることのできる強靱な探究力をもっている	
		教科教育	教員として、音楽、図画工作・美術の教科指導力にかかる知見を他者と共有し、高め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	音楽・美術の教育内容に関する高度な専門的知識と音楽、図画工作・美術の教科教育学に基づく知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察していくことができる	
	生活・健康・情報系教育	教科内容	保健体育、技術・家庭、工業、情報に関わる高度な専門的知識と技能を有するとともにそれらを学ぶ楽しさを知り、教員として学び続けることのできる探究力をもっている	
		教科教育	教科の学習指導に関わる理論と方法を熟知するとともに、実践力向上に努め続けることのできる研究力をもっている	
		教科内容と教科教育の融合	教科の内容に関わる高度な専門的知識と教科教育学に基づく実践的知見をもとに、授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる	
		複合領域	教科の枠を超えた食育・健康・環境・情報（ICT活用）等の複合領域について高度な知識と技能を有し、さまざまな視点から授業の内容と方法を開発・研究・省察することができる	
	教育実践高度化	学校経営	学校経営	学校経営の基本枠組みと理論を理解し、学校経営における問題発見・課題形成ができ、学校の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
			教育行財政	教育行財政の基本法規や制度を理解し、教育委員会における問題発見・課題形成ができ、教育委員会の課題解決の方向性を提案する実践力を有している
			理論と実践の融合	学校経営や教育委員会の事例から、成功要因を探り出し、学校や教育委員会に適用するための中範囲の理論化ができる。また、理論をもとにして、学校や教育委員会の改善策の具体化ができる
		授業実践開発	授業デザイン	理論と実践の事実に基づいて、カリキュラム、単元、授業の開発（デザイン）を行う力をもっている
			授業実践	授業実践についての高度な知識・技能に基づいて、同僚と協働して実践研究を推進する力をもっている
			授業改善	授業実践の分析・評価に基づいて、課題を発見し、それを解決する力をもっている
			ミドルリーダー	現職教員については、研修リーダーやメンターなど、同僚や若年教員に対して指導的役割を果たし得る力をもっている
		生徒指導実践開発	包括的児童生徒支援に関する知識と理解	包括的児童生徒支援の各領域（生徒指導、教育相談、キャリア教育、道徳教育、学級経営、特別活動・地域連携）に関する知識と理解を十分に持っている
包括的児童生徒支援のリーダーとしての実践力			学校等において、包括的児童生徒支援を実践し、研修企画ができる	
包括的児童生徒支援の研究能力	学校等において、包括的児童生徒支援の各領域に関する実践研究を継続して行うことができる			
小学校教員養成特別	教科・領域の教育内容	小学校の教科・領域の教育内容の特質を知り、教員として研究対象とした教育内容について強靱な探究力をもって学び続けることができる		
	教科・領域の教育方法	小学校の教科・領域の指導と評価にかかる知見を身に付け、実践と省察を通してそれらの能力を高め続けることができる		
	教科・領域の教育内容と教科・領域の教育方法の融合	小学校の教科・領域の教育内容に関する高度な専門的知識と教科・領域の教育方法に関する知見をもとに、授業の内容と方法を開発・実践・省察していくことができる		

## 教員養成スタンダード（大学院）

## 【基礎部分】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻		
ふりがな		コース	教育コミュニケーションコース		
氏名		5領域	スタンダード		
			(上段) 学年当初の自己評価の数値を記入する (下段) 学年末の自己評価の数値を記入する できない : 1      少しできる : 2 ほぼできる : 3      十分できる : 4		
			1年次	2年次	3年次
学び続ける教師	1	省察的実践による課題改善を図ることができる			
	2	研究を通じた専門性向上をめざすことができる			
	3	長期的視野に立つ主体的な職能成長を図ることができる			
教師としての基本的素養	4	社会人としての素養を備え、自立した社会人として行動できる			
	5	教師としての自覚と使命感を持ち、専門職業人としての知見を備えている			
児童・生徒の理解に基づく学級経営・生徒指導	6	児童・生徒の発達についての知見をもとに児童・生徒にかかわることができる			
	7	学級経営の基礎的な知識を踏まえて学び合う集団、自治的・文化的集団の育成ができる			
	8	児童・生徒の多面的な理解をもとに、多様な場面に對して適切かつ柔軟に対応できる			
教科等の指導	9	専門的な知見をもとに学習内容を探究し、教材開発につなげることができる			
	10	学習指導を分析する幅広い知識を有し、確かな学びを導くことができる			
	11	学習内容の系統性と児童・生徒の実態を踏まえて指導計画に反映させることができる			
	12	教師としての専門的な知見を授業研究に生かすことができる			
	13	学習評価についての多面的な理解をもとに、評価を学習指導に生かすことができる			
連携・協働	14	多様な場面で学校内での協働を進める方法論を身につけている			
	15	保護者・地域との親和的な関係を結び、協調的に活動する意義を理解している			

※ 以下に該当する場合は、チェック☑してください。

教員免許状を所有しておらず、かつ取得予定もない

【1年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【1年次修了時の振り返り】
【2年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【2年次修了時の振り返り】
【3年次当初の自己評価を踏まえた自己課題】
【3年次修了時の振り返り】
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】
【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】
(                    ) (                    ) (                    ) (                    ) (                    )

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

## 教員養成スタンダード（大学院）

## 【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
1年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
1年次修了時の振り返り			

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

## 教員養成スタンダード（大学院）

## 【専門性の実現に向けた】自己評価票

学籍番号		専攻	人間発達教育専攻
ふりがな			
氏名		コース	教育コミュニケーションコース
観点	スタンダード	目 標	
探究力	人間，社会，教育について，広い視野から，根本に立ち返って考えることのできる探究力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
実践力	人と人との対話的な関係を構築しながら，組織変革のために提言できる実践力を有している		
2年次修了時の振り返り			
観点	スタンダード	目 標	
研究と実践の融合	実践的研究者としてよりよい実践を探究し続ける力を有している		
2年次修了時の振り返り			
【自己成長のあしあと（全課程修了時の総括的な振り返り）】			
<p>【自己成長を振り返るキーワードを5つ以内で挙げること】</p> <p>( ) ( ) ( ) ( ) ( )</p>			

☆必要に応じて各記入欄の行を追加してください。本様式が2頁に渡っても差し支えありません。

【指導教員による総括コメント】

提出先：学生は指導教員へ → 指導教員は教育支援課へ (aca-std-gs@hyogo-u.ac.jp)

# 教職アドバンスプログラム (昼間のみの開講)

修士課程の大学院生(現職教員を除く)を対象に、実習を主体としたカリキュラムを通して、教員として必要な高度な専門性と実践的指導力の養成を目的としています。

●対象

大学院学校教育研究科(修士課程)の学生のうち、希望する学校種(小学校、中学校、高等学校のいずれか一つ)の1種免許状を取得済み、あるいは平成27年度中に取得見込みで、教員を志願する者(現職教員を除く)

●受講可能人数

20人(受講申請者の中から、選考により受講者を決定)

●履修方法

連携6大学が遠隔講義システムにより相互提供する授業科目「教職アドバンス科目群」から6単位以上(他の連携大学大学院の授業科目1科目2単位以上を含む)および、「教職アドバンス実習」4単位(事前・事後指導1単位を含む)を修得します。



## 1. 教職アドバンス実習

3週間に及ぶ大学院レベルの実習を通して、受講生は指導教員のアシスタントティーチャーとして、教職における職務内容の在り方を幅広く理解し、指導力の向上を目指します。

## 2. 連携6大学による教職アドバンス科目群

連携6大学が相互提供するプログラム科目群から、さまざまな授業科目を選択できます。

●授業科目例 ※平成26年度開設科目

教育コミュニケーション論 学級における人間関係の心理学 特別支援教育総論	兵庫教育大学
固体電気化学 代数幾何学	兵庫県立大学
人間形成論方法論I 人間形成論特殊講義II	神戸学院大学
家政教育学特論 臨床心理学特論Ia	神戸女子大学
教育心理学特論	神戸親和女子大学
教育思想史特論	武庫川女子大学



プログラム科目は遠隔講義システムを利用。受講生はマイクを通して質問する



## 3. eポートフォリオの活用

eポートフォリオを活用して、教育研究活動の成果を蓄積したり、学びの振り返りを行ったりすることで自己の到達レベルを確認できます。その際、必要となるタブレット端末を受講期間中貸し出します。



eポートフォリオの画面

■プログラム修了にかかる修得単位数

教職アドバンス実習(4単位:事前・事後指導1単位を含む)	10単位以上
教職アドバンス科目群(教職アドバンス科目群から3科目6単位以上を修得)	

MA086001

## 教職アドバンス実習

昼間（プログラム）クラス

担当教員 長澤 憲保、大林 英夫、笹倉 政之、吉竹 主税、大久保 信三

単位数

開講学期 通年

単位区分

開講曜日時限 時間外

授業方法 講・演・実

標準履修年次 5年

備考

## 【授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)】

授業の目標：3週間の実習を通して、

①学部における教員免許状取得のための教育実習の経験を踏まえて、志望する学校の教育全般についてさらに実地に学び、教科指導、生徒指導、特別活動や道徳、総合的な学習の時間の指導等におけるより実践的な指導力・展開力の向上を図る。

②配属校における指導教員（以下「メンター」という。）の教育活動をアシスタント・ティーチャー（以下「AT」という。）として支援しながら、現場のニーズや課題に応じた特色ある教育実践がどのように行われているのかを理解する。

③上記の教育実践活動を通じて、本学の授業科目担当教員（以下「大学実習指導教員」という。）の指導の下、自らの実習課題の設定及び解決に向けて、主体的、協同的に取り組むことができるようになる。

期待される学習効果：教員免許状取得のための教育実習の経験を踏まえて、自らが課題意識を持ちながら実習に参加し、その経験の省察を通して、教職における職務内容や学校運営のあり方等を幅広く理解し、教職専門性と実践的指導力の向上を目指す。

## 【授業の内容・計画】

本科目は、主として6月～11月（4月～7月）の活動期間中に行った以下の3つの活動（①～③）を評価し、単位認定を行う。

なお、主な実施日時等は、掲示及び教職アドバンスプログラム受講者専用のeポートフォリオサイトにて周知する。

①事前・事後指導、リフレクションセミナー、訪問指導、グループ演習、実習成果発表会（15時間）

・事前指導：4時間：6月～9月（4月）、本学で行う実習内容等の説明会（実習心得等の指導含む）2時間と、実習校との事前打合せ（実習計画、服務、学校紹介等）2時間を行う。

・リフレクションセミナー：6時間：実習期間中（3週間×2時間（原則として課題研究が行われる金曜日とする。））に大学実習指導教員が実習生と共に実習の成果を省察し、指導を行う。

・訪問指導：1時間：大学実習指導教員が実習校を訪問し、実習生の取組状況について、メンター、実習生との面談による指導・助言を行う。（16時～17時を基本とする。教科指導や研究授業に伴う訪問は時間設定が異なる。日程等の調整は実習生が行う。）

・事後指導、グループ演習及び実習成果発表会：4時間：12月以降：大学実習指導教員による実習成果を踏まえた事後指導（実習の反省と今後の課題についての指導）と実習生同士によるグループワークの振り返りを行った後、各実習生による実習成果発表会を行う。

②指定学校での3週間の実習（3単位：週4日1単位×3週間）

・第1週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導・教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に観察）しながら、教育実践を理解する。

・第2週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導、教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に補助）しながら、教育実践を理解するとともに自らの実習課題の解決に向けた活動を行う。

・第3週：配属校のメンターの教育活動（授業（学習指導、教科等指導）、特別活動（学校行事運営、クラブ活動・部活動指導）、生徒指導）をATとして観察又は補助（主に補助）しながら、教育実践を理解するとともに自らの実習課題の解決に向けた活動を行う。

③「実習ノート等」の提出

実習生は、実習終了後2週間以内に「実習ノート等」を大学実習指導教員に提出しなければならない。

## &lt;留意事項&gt;

①実習受入校ごとに支援の場面・方法、期間等に異なりがある。事前指導等での説明を確実に記録し、適切に対応すること。

②各実習受入校との連絡を密にし、無理のない活動計画を立て、誠実な取り組みを継続すること。

**【成績評価の方法・基準等】**

<実習校の実習の評価> (50%、：評価票の7つの観点：「教職意識」，「児童生徒理解力」，「コミュニケーション力」，「計画力・教材研究力」，「学習指導力」，「評価力」，「実習記録」) 及び<大学実習指導教員の事前・事後指導等の評価> (50%：評価票の5つの観点 (各項目)：「リフレクションセミナーへの参加態度」，「教職意識・教員としての成長度」，「実習生の実習成果」，「実習記録」，「総括レポート」) に基づいて，教職アドバンスプログラム運営室実習専門部会で総合的に成績評価を行う。

**【テキスト・教材・参考書等】**

- ・大学として，特に準備を求めるものはない。
- ・各実習受け入れ校の指示に従うこと。

**【事前事後学修】**

**【その他】**

- ①本科目履修のための交通費や食費等は履修者の自己負担となる。
- ②本科目での活動中の事故等においては，他の教育実習と同様に，入学時に加入した「学生教育研究災害障害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」の適用を受ける。詳細について，約款等をよく確認しておくこと。

ベストクラス選定理由書

作成者：澁江靖弘，山端真司，吉水裕也

科目名称	社会の中の言語文化		
	(担当教員名： 菅井三実 )		
課程	学部1年次	開講時期	前期
授業形態	講義	授業規模	81人以上
インタビュー対象教員名	菅井三実 (実施日時：6月24日(水)13時～14時；実施場所：教育・言語・社会棟2階)		
インタビュー対象受講者名	矢野新菜，山本真由 (実施日時：7月8日(水)12時30分～13時；実施場所：事務局2階中会議室)		
選定理由	<p>受講生130人中100人以上が1年生であるこの授業では、高校の内容を超え、さらに高いところから見るような授業、つまり大学らしい授業づくりが心がけられている。</p> <p>授業では、世界には4桁の数の言語があり、歴史的に見ると家系図のように言語が分かれたり消滅したりすること、日本は1つの言語の国ではないことなど、言語に関する基礎知識が扱われている。それらの内容を通して言語について相対化すること、そして、言語についての視野を広げることがねらいとされている。学生は外国語と言えは英語だと考える傾向があり、またそれが標準だという意識がある。例えば、日本語と英語を比較すると、日本語の語順と同じ言語が半数位で、英語のような語順を取る言語は相対的に少ないことや、スペリングどおり発音しないという点でも英語が特異な言語であることなど、学生の常識とは異なる興味深い内容が豊富な資料(毎時A4で5枚程度)と共に扱われている。また、1年生が多い授業であるため、レポートの書き方も詳しく扱われている。大学生のレポートとして成り立つように、導入、結果、考察という形式や、参考文献の書き方、「」の使い方、段落の作り方などを、過去のレポートをサンプルとして検討しつつ扱われる。学生は、この授業で学んだことを他の授業にも生かしている。</p> <p>授業では、学生にできるだけ話しかけたり、揺さぶりをかけたりする工夫がなされている。ワイヤレスマイクを渡す、ランダムに指名するなど、対話をする工夫である。学生が発言するように、学生からの質問の良さをほめるなどのことも積極的に行われている。</p> <p>学生は、これらの工夫を肯定的に受け止めており、思考することの楽しさを味わいながら積極的に授業に参加している。例えば、方言を題材にした授業では、母音の多い・少ないなど方言は自分にとって身近なものだと感じたり、方言は地方によって意味は同じでも言い方が異なること(例：捨てる、ほかす等)や分布に規則性があることを学んだり、まわりの人とも考えたりする時間がとれたことや、積極的に調べたことを通して、自分たちの言葉を見つめ直す機会となったようである。</p> <p>授業の目標が明確に設定され、それが学生と共有された上で達成されていると考えられること、基礎的かつ自分自身が使っていることばを相対化できるような内容を提供していること、受講生が考えることを楽しみながら言語に関する視野を広げることができていると考えられること、考えるための手だてを意図的に組み込んでおり学生が楽しみながら参加していること、からベストクラスとしてふさわしいと考える。</p>		

平成27年度免許状更新講習  
事後評価アンケート集計結果(必修・選択)

【必修領域】

Table with columns: No., 講習期間, 講習の名称, 担当講師, 募集人数, 受講人数, 評価項目 I, I 評価, 評価項目 II, II 評価, 評価項目 III, III 評価, 全体平均, 全体平均. Includes rows for 7/25~26, 8/1~2, 8/8~9, 8/18~19, 8/29~30, 8/18~19 and a summary row.

アンケート無記入1名

【選択領域】

Table with columns: No., 講習日, 講習の名称, 担当講師, 募集人数, 受講人数, 評価項目 I, I 評価, 評価項目 II, II 評価, 評価項目 III, III 評価, 全体平均, 全体平均. Includes rows for 7/25(土), 7/26(日), 8/1(土), 8/2(日), 8/3(月), 8/5(水), 8/6(木), 8/7(金), 8/8(土), 8/9(日), 8/10(月), 8/18(火), 8/19(水).

アンケート無記入1名

アンケート設問3のみ無記入1名

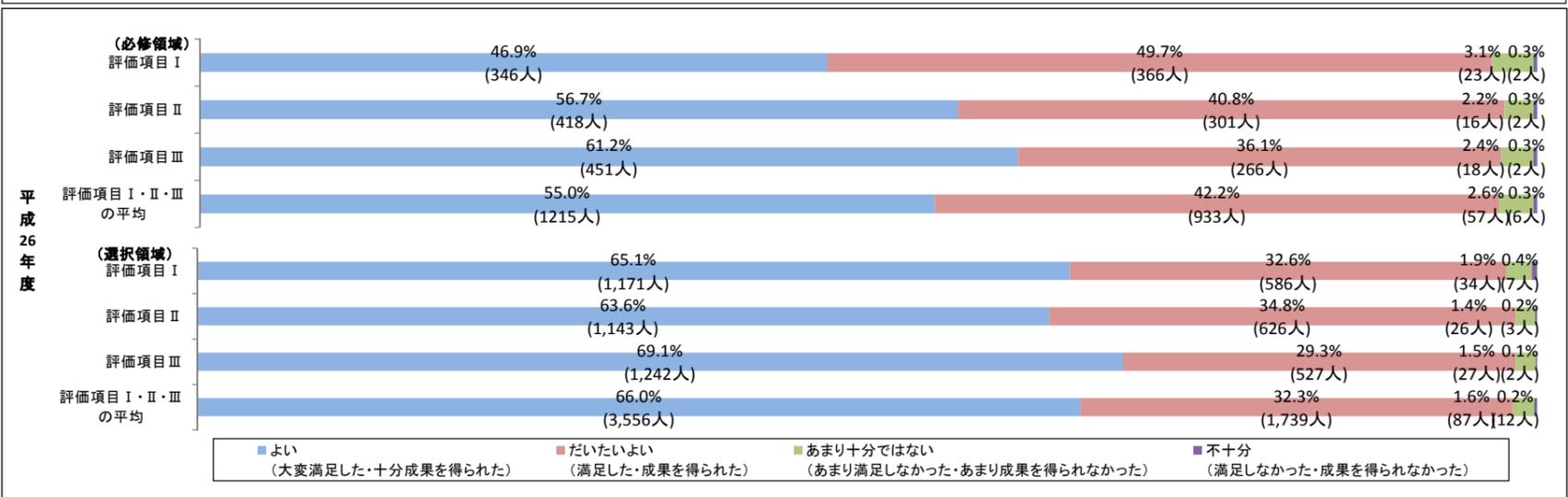
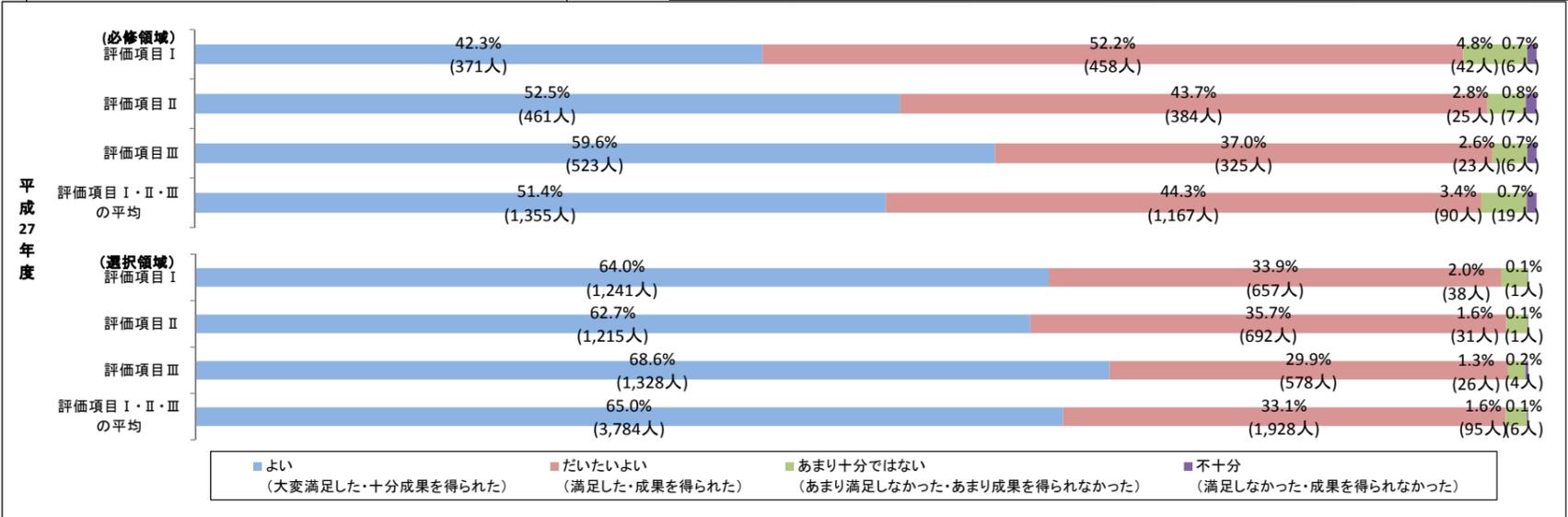
アンケート設問1のみ無記入1名

アンケート設問3のみ無記入1名

45		運動部活動指導論 一学校教育としてのあり方を考えるー	森田 啓之	60	41	23	17	1	0	3.54	28	13	0	0	3.68	23	18	0	0	3.56	24.7	16.0	0.3	0.0	3.59
46		効果的な歌唱・合唱活動の展開	野本 立人	25	27	20	7	0	0	3.74	22	5	0	0	3.81	23	4	0	0	3.85	21.7	5.3	0.0	0.0	3.80
47	8/20(木)	実験・観察で学ぶ小学校教員のための生物の基礎基本	笠原 恵	24	21	18	3	0	0	3.86	18	3	0	0	3.86	15	6	0	0	3.71	17.0	4.0	0.0	0.0	3.81
48		学力調査から見る日本の教育の現状A	安藤 福光, 大野 裕己	32	31	17	14	0	0	3.55	18	13	0	0	3.58	23	8	0	0	3.74	19.3	11.7	0.0	0.0	3.62
49		自信をもって取り組める学校保健	鬼頭 英明	20	20	14	6	0	0	3.70	10	10	0	0	3.50	11	9	0	0	3.55	11.7	8.3	0.0	0.0	3.58
50	8/24(月)	英語の語法・文法を授業に役立てる	有働 真理子, 谷 明信	20	20	11	9	0	0	3.55	11	8	1	0	3.50	15	5	0	0	3.75	12.3	7.3	0.3	0.0	3.60
51		手話の世界へ: 小学校における手話学習の取組	鳥越 隆士	20	25	17	8	0	0	3.68	17	7	1	0	3.64	19	5	1	0	3.72	17.7	6.7	0.7	0.0	3.68
52	8/25(火)	コミュニティ・スクールのススメB	日渡 円, 安藤 福光	30	19	12	7	0	0	3.63	14	5	0	0	3.74	15	3	0	1	3.68	13.7	5.0	0.0	0.3	3.68
53		英語の発音指導 理論と実践	近藤 暁子	16	16	13	3	0	0	3.81	15	1	0	0	3.94	13	3	0	0	3.81	13.7	2.3	0.0	0.0	3.85
54	8/27(木)	知っておきたい! まちあるき授業の進め方 (公社)土木学会との共催)	北詰 恵一	40	23	17	5	1	0	3.70	15	7	1	0	3.61	19	4	0	0	3.83	17.0	5.3	0.7	0.0	3.71
55		児童生徒理解のための心理学調査法	竹西 亜古	24	23	19	4	0	0	3.83	15	7	1	0	3.61	17	6	0	0	3.74	17.0	5.7	0.3	0.0	3.72
56	8/28(金)	聴くことの文化から学ぶことA	長尾 義人	40	40	19	18	3	0	3.40	17	20	3	0	3.35	22	17	1	0	3.53	19.3	18.3	2.3	0.0	3.43
57		学力調査から見る日本の教育の現状B	安藤 福光, 大野 裕己	32	31	22	8	1	0	3.68	23	8	0	0	3.74	28	3	0	0	3.90	24.3	6.3	0.3	0.0	3.77
58	8/29(土)	楽しい社会科フィールドワーク入門	吉水 裕也	16	14	12	2	0	0	3.86	11	3	0	0	3.79	11	3	0	0	3.79	11.3	2.7	0.0	0.0	3.81
59	8/30(日)	物理現象の数理モデリング	猪本 修, 石原 諭	15	4	2	1	1	0	3.25	3	1	0	0	3.75	3	1	0	0	3.75	2.7	1.0	0.3	0.0	3.58
71	8/6(木)	特別支援教育基礎論(基本的考え方)	河相 善雄	20	19	2	14	3	0	2.95	6	11	2	0	3.21	9	9	1	0	3.42	5.7	11.3	2.0	0.0	3.19
72	8/7(金)	特別支援教育基礎論(制度のこれまでとこれから)	河相 善雄	20	18	6	10	2	0	3.22	8	9	1	0	3.39	9	8	1	0	3.44	7.7	9.0	1.3	0.0	3.35
73	8/3(月)	病弱児の心理・指導法(病弱児心理, 生理及び病理)	高野 美由紀	20	21	6	13	2	0	3.19	8	12	1	0	3.33	15	6	0	0	3.71	9.7	10.3	1.0	0.0	3.41
74	8/4(火)	病弱児の心理・指導法(病弱児教育課程及び指導法)	高野 美由紀	20	20	8	11	1	0	3.35	6	12	2	0	3.20	12	8	0	0	3.60	8.7	10.3	1.0	0.0	3.38
60	10/3(土)	日本の伝統と文化に関する教育課程と授業実践ーグローバル世界への日本文化の発信を意図してー	中村 哲	50	46	23	18	4	0	3.35	24	18	4	0	3.43	31	13	1	0	3.59	26.0	16.3	3.0	0.0	3.46
61		人間理解が基礎となる障害理解とその指導のあり方ー疑似障害体験を含めてー	芝田 裕一	20	19	16	3	0	0	3.84	17	2	0	0	3.89	17	2	0	0	3.89	16.7	2.3	0.0	0.0	3.88
62	10/4(日)	子どもの不応の問題に対する教育的支援ー子どもと大人(教師ならびに保護者)とのかかわりあいの観点からー	辻河 昌登	60	59	41	18	0	0	3.69	43	16	0	0	3.73	52	7	0	0	3.88	45.3	13.7	0.0	0.0	3.77
63		聴くことの文化から学ぶことB	長尾 義人	40	39	18	21	0	0	3.46	19	20	0	0	3.49	24	15	0	0	3.62	20.3	18.7	0.0	0.0	3.52
64	10/17(土)	知っておきたい! 障害のある子どもの医療と福祉	高野 美由紀, 石倉 健二	50	53	29	24	0	0	3.55	29	24	0	0	3.55	33	19	1	0	3.60	30.3	22.3	0.3	0.0	3.57
65		小学校におけるボール運動の授業づくりー系統性と教育内容の明確化を意識した教材づくりー	筒井 茂喜	30	13	11	2	0	0	3.85	11	2	0	0	3.85	12	1	0	0	3.92	11.3	1.7	0.0	0.0	3.87
66		コンピュータ・マッピングによる主題図作成(作図ソフト MAN DARA入門)	南 望 猛	14	14	9	5	0	0	3.64	11	3	0	0	3.79	9	5	0	0	3.64	9.7	4.3	0.0	0.0	3.69
67		小学校教員のための木材加工の基礎	森山 潤, 掛川 淳一	8	8	8	0	0	0	4.00	8	0	0	0	4.00	8	0	0	0	4.00	8.0	0.0	0.0	0.0	4.00
68	10/18(日)	中学校・高校の歴史学習における教材研究	原田 誠司, 松田 吉郎, 森田 猛	50	11	5	6	0	0	3.45	6	5	0	0	3.55	6	5	0	0	3.55	5.7	5.3	0.0	0.0	3.52
69		中高生のための英語スピーキングテスト	吉田 達弘	24	12	12	0	0	0	4.00	10	2	0	0	3.83	9	2	1	0	3.67	10.3	1.3	0.3	0.0	3.83
70		発光ダイオードの原理と特性ー教材開発のためにー	小山 英樹	16	7	6	1	0	0	3.86	3	4	0	0	3.43	6	1	0	0	3.86	5.0	2.0	0.0	0.0	3.71
75	10/17(土)	視覚障害心理(心理と生理・病理)	芝田 裕一	20	20	15	5	0	0	3.75	14	5	1	0	3.65	14	6	0	0	3.70	14.3	5.3	0.3	0.0	3.70
76	10/18(日)	視覚障害心理(心理と障害受容)	芝田 裕一	20	22	17	5	0	0	3.77	19	3	0	0	3.86	17	5	0	0	3.77	17.7	4.3	0.0	0.0	3.80
計				2,344	1,940	1,241	657	38	1	3.61	1,215	692	31	1	3.61	1,328	578	26	4	3.66	1,261.3	642.3	31.7	2.0	3.63
(参考)平成26年度計				2,115	1,797	1,175	582	34	6	3.63	1,145	623	26	3	3.62	1,243	525	27	2	3.67	1,187.7	576.7	29.0	3.7	3.64

アンケート設問1,3のみ無記入1名

評価項目Ⅰ: 講義内容・方法についての総合的な評価	募集人数	受講人数	4	3	2	1	Ⅰ	4	3	2	1	Ⅱ	4	3	2	1	Ⅲ	4	3	2	1	全体平均
評価項目Ⅱ: あなたの最新の知識・技能の習得の成果についての総合的な評価			評価項目Ⅰ				評価	評価項目Ⅱ				評価	評価項目Ⅲ				評価	全体平均				
評価項目Ⅲ: 講習の運営(受講者数, 会場, 連絡等)についての総合的な評価																						



## 平成27年度 兵庫教育大学研修講座実施状況

## ●自主研修、10年経験者研修等の選択研修

No.	新規 継続	研修講座名	講師	主たる対象	日程等	場所	募集人数	受講者数
1	継続	「デンプンの消化」 ー実験の工夫と理解の深化をめざしてー	渥美茂明教授	小学校教員	8/4(火) 9:30~12:00	加東キャンパス 自然、生活・健康 棟423	12名程度	10
2	継続	「理科野外活動が得意な先生になろう」 ー生き物の名前調べー	渥美茂明教授	小学校教員	8/6(木) 9:30~12:00	自然、生活・健康 棟423	12名程度	15
3	継続	ポイント伝授 夢中を引き出す陶芸活動	浅海真弓准教授	幼稚園・小学校 教員、保育士	8/7(金) 13:10~15:10	芸術棟117 工芸実習室	10名程度	15
4	継続	顕微鏡による岩石の観察	澁江靖弘教授	中学校教員	8/10(月) 13:10~16:40	自然、生活・健康 棟419	8名まで	8
5	新規	図工+音楽=? 総合的な表現活動を楽しもう!	初田 隆教授 木下千代教授	小学校教員	8/17(月) 9:00~16:00	芸術棟	20名程度	19
6	継続	インプロ(即興演劇)でこころと身体を解きほぐそう ー共感的・応答的・創造的コミュニケーションの愉 しみー	宮元博章准教授 学外講師	学校種を問わな い	8/19(水) 13:00~17:00	マイクロティーチ ングスタジオ①	15名程度	12
7	継続	技術科におけるICT活用の授業デザイン 2015 ー電気回路シミュレーションの活用ー	森山 潤教授 学外講師	中学校技術科教 員	8/20(木) 10:30~16:30	自然、生活・健康 棟112及び技術 実習棟	5名程度	14
8	継続	校務におけるICT活用のための基礎 ーワープロ、 表計算、プレゼンテーション等各ソフトウェアにおける基礎 とポイントー	掛川淳一准教授	学校種を問わな い	8/21(金) 10:00~16:30	共通講義棟情報 教育実習室3	10名程度	11
9	継続	学習指導の多様な展開を構想する道徳の時間の 授業づくり	淀澤勝治准教授	小学校・中学校 教員	8/21(金) 10:00~16:10	共通講義棟304	15名程度	16
10	継続	技術リテラシーの育成を図る技術科の教材研究 2015 ークリップモータのパソコン制御ー	小山英樹教授 森山 潤教授	中学校技術科教 員	8/25(火) 10:30~16:30	自然、生活・健康 棟112及び技術 実習棟	5名程度	5
11	新規	通常学校に在籍する肢体不自由のある児童生徒 への指導の基礎・基本 ー車椅子の取り扱いから 指導計画までー	石倉健二教授	特別支援学級担 任、通級指導教 室担当者	5/23(土)、9/5(土) (2日間) 10:00~15:00	神戸HLC 兵教ホール	20名程度	19
12	継続	就学前集団保育から小学校教育への適応的移行 に向けた子ども理解と連携	小林小夜子教授	幼稚園・小学校 教員、保育所保 育士	7/31(金) 13:00~16:00	講義室1, 2	20名程度	17
13	継続	やってみよう! 楽しい理科の実験・実技 ー小学校の先生自身が楽しむ理科ー	笠原 恵准教授 学外講師	小学校教員	8/1(土) 13:00~16:00	講義室2	12名程度	11
14	講座 名 変更	コミュニケーション力を育む体育授業づくり	筒井茂喜准教授	小学校・中学校 教員	8/3(月) 9:30~12:00	講義室5	15名程度	18
15	継続	子どもと学級をみる目を広げる	秋光恵子教授 学外講師	現在、学級担任を している小・中・高 等学校教員	8/4(火)、8/6(木) (2日間) 10:00~15:00	講義室2	10名程度	10
16	継続	中堅層教員のための学校組織マネジメント事始め (小学校・中学校)	大野裕己准教授 学外講師	小学校・中学校 教員	8/5(水) 10:00~17:00	講義室3	15名程度	6
17	継続	中堅層教員のための学校組織マネジメント事始め (高等学校・特別支援学校)	大野裕己准教授 学外講師	高等学校・特別 支援学校教員	8/6(木) 10:00~17:00	講義室3	15名程度	6
18	新規	外国語活動の授業づくり ーコミュニケーションへの積極的態度を育てようー	吉田達弘教授 学外講師	小学校教員	8/7(金) 10:00~16:00	講義室5	20名程度	19
19	新規	物理現象の数理モデリングと力学系理論の基礎	猪本 修准教授	高等学校教員ほ か	8/17(月)~19(水) (3日間) 10:00~15:00	講義室2		
20	継続	運動部活動における「指導」を考える ー体罰から対話へー	森田啓之准教授	主に中学校教員 (高等学校教員 も可)	8/17(月) 13:00~16:00	講義室1	20名程度	22
21	継続	教員のための分子生物学入門 ー教員のためのバイオインフォマティクスー	笠原 恵准教授	高等学校生物教 員、分子生物学 に関心のある小 中学校教員	8/18(火) 10:00~14:00	コンピュータ教室	12名程度	12
22	継続	「言葉の力」をつける国語科授業づくりセミナー ー思考力・判断力・表現力を育むためにー	堀江祐爾教授 学外講師	小学校教員	8/18(火) 10:00~17:00	講義室4	20名程度	40
23	継続	“自分のことば”で授業を語り聴き合う教員研修 ー対話による授業リフレクションの体験ー	宮元博章准教授 学外講師	小学校・中学校 教員	8/20(木) 10:00- 16:30、8/21(金) 11:00-16:00(2日間)	講義室1	10名程度	4
24	継続	教師としての成長・発達について考える ー教職生活の中でマンネリズムやバーンアウトに 陥らないためにー	新井 肇教授 別添淳二准教授	小学校・中学校 教員	8/20(木) 9:30~17:00	講義室4	20名程度	17
25	新規	強みを生かして学校を変えよう	安藤福光准教授 学外講師	中学校・高等学 校教員	8/27(木) 10:00~17:00	講義室2	20名程度	6

## ●初任段階教員向けの研修(教職経験1~5年目程度)

26	継続	わかる授業づくりのポイントを学ぼう ー生涯楽しく学び続ける教師であるためにー	吉園秀人准教授 学外講師	小学校教員	8/1(土) 10:00~16:00	神戸HLC 講義室1	10名程度	9
27	継続	初任段階の教師のためのコミュニケーション論 ー子どもの声を受け止めるということー	大関達也准教授 学外講師	小・中・高等学 校教員	8/19(水) 10:00~16:00	講義室1	15名程度	1

備考: 講師欄の下線は、講座実施責任者を示す。

合計 (中止の講座を除く) 26講座 366名程度 342 (93.4%)